

科目名 (Subject)	外国語演習 c (中国語) Foreign Language Seminar c		
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	嘉瀬 達男 (Tatsuo KASE)	研究室番号 (Office)	303
Office Hours	在室時		
<p><b>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</b></p> <p>中国語 1・2 で身につけた能力を更に向上させることを目的とします。特にリスニングと会話の訓練を通して、実用的な日常会話能力の向上をはかります。</p> <p>教材はリスニングと発話能力を高めるための教材を用います。毎時、教材に取り上げられた内容に基づいて、会話練習や簡単なスピーチ・プレゼンテーションができるようになるよう指導します。リスニング練習には情報機器・視聴覚機器を用い、会話練習は、教員と学生または学生相互の対話によって進めます。</p> <p><b>2. 授業内容 (Course contents)</b></p> <p>以下に、教科書に取り上げられている話題によって授業の予定を紹介します。</p> <p>第 1 週            ガイダンス</p> <p>第 2・3 週        自己紹介一名刺交換、自分について語る</p> <p>第 4 週            教室での会話</p> <p>第 5～7 週        電話番号・個数・金額など、数字を用いた会話①</p> <p>第 8・9 週        時刻・サイズ・人口・面積など、数字を用いた会話②</p> <p>第 10～12 週     所在地をめぐる会話</p> <p>第 13～15 週    地図での道案内、地下鉄・バス・タクシーでの行き方</p> <p>教科書は各課とも、非常に具体的で実用的な会話のリスニング問題が中心となっています。日常会話ですから、文法はわかりやすく文も長くはありませんが、日常生活で必須の語彙が多数用いられています。こうした会話をテンポ良くかわせるよう、朗読や言い換えの練習、更には様々な場面でのやりとりができるよう訓練を重ねます。</p> <p>予習は、あらかじめその週の単語を覚え、会話に使えるよう準備をすることです。また、積極的に発言、会話ができるよう、既習単語などその週の話題に関連する語彙を確認しておくことです。できれば簡単な例文などを作っておくとよいでしょう。復習は、授業中の会話で新たに出てきた単語や表現を覚えることです。</p> <p><b>3. 使用教材 (Teaching materials)</b></p> <p>教材は印刷して配布します。参考書は授業で適宜紹介します。</p> <p><b>4. 成績評価の方法 (Grading)</b></p> <p>主に授業への参加度によって評価し、積極的な発言や取り組みを見ます。</p> <p>出席率    10%</p> <p>授業への参加度    70%</p> <p>小テストまたは小スピーチ    20 %</p> <p><b>5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)</b></p> <p>秀 (100～90) : 授業で扱った中国語の内容について、ほぼ完全に習得した者。</p> <p>優 (89～80) : 授業で扱った中国語の内容について、十分に習得した者。</p> <p>良 (79～70) : 授業で扱った中国語の内容について、おおむね習得した者。</p> <p>可 (69～60) : 授業で扱った中国語の内容について、基本的に習得した者。</p> <p>不可 (59～0) : 授業で扱った中国語の内容について、ほとんど習得しなかった者。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項 (Remarks)</b></p> <p>予習・復習に時間をかければかけるほど、授業で積極的に発言できるようになることでしょう。特に発音練習に時間をかけることを勧めます。</p> <p>中国語を母語とする履修者には、発音指導の方法などを伝授し、日本人学生との交流をはかります。</p>			

